

研修の場として

公益財団法人アジア保健研修所（AHI） 大熊 優子

AHI の国際研修では、宗教・身分・ジェンダー・障害の有無など、様々な違いを持つ人びとが、いかに協力して地域をよくしていけるか、お互いの経験から学びます。

広島を訪問し、原爆の恐ろしさと平和への復興の歴史について学んだ研修生たちは、その後、中本さんにお会いし、「ばっちゃん」を頼ってくる子どもや若者の身に起きている“平和ではない話”を聞いて、とても驚き、戸惑います。自分たちの現場で起きている状況とあまり変わらないからです。現地の人たちを思い出して涙を流す研修生もいます。



「食べて語ろう会」を訪問するのは、研修生たちに、普段の活動を通じて平和づくりができると気づいてほしいからです。あえて「平和」と呼ばなくとも、問題に直面している人々の居場所を作り、一緒に食事や話をして、その人たちが笑顔になっていく様子や、食事を作るボランティアさんが増えていたり、学校の先生や行政など、地域のみんなで問題を話し合い、解決のために動くという過程を、「ばっちゃん」のお話を通じてリアルに感じ、自分なら何ができるか、どんな形で、誰と協力できるか…と実際に考えてもらえる機会になればと思います。

研修生の一人は、ばっちゃんやボランティアの方たちが、いろんな事情をもった子どもたちを差別することなく受け入れ、その一人一人がお腹を満たし、そこから自分の価値を見だし、他の子の事も考えていけるような場所を提供している姿にとっても感銘を受けたようで、「差別をしない、一人一人を大事にすること、そのシンプルな事を、意志を貫いて、続けていけば、いつか平和な社会をつくることができる」と発表しました。

「平和」から置いていかれてしまったような、弱い立場の人たちと共にいる「ばっちゃん」と「食べて語ろう会」のことを、今後も AHI の研修生に伝えていきたいと思っています。